

【5・6年生】

「じょうがんじ 暴れ常願寺川」

ー理科・社会・総合的な学習の時間ー



◇ 準備物・服装等

個人	学校・団体	国立立山青少年自然の家
・長袖・長ズボン ・帽子 ・履きなれたシューズ ・長靴または替えのシューズ ・水筒 ・着替え	・関連学習に必要なもの ・救急セット ・携帯電話（緊急連絡用） ・トランシーバー	・無線機 ・ザイル（上流の川に入る場合）

◇ 主なねらい

・常願寺川の環境学習を通して、5年理科「流れる水の働き」の学習や治水の歴史等を学ぶ。【SDGs14・15】

◇ 適期 7月～10月 ※5年理科「流れる水の働き」の学習時期は10月

◇ 活動人数 40人程度 ◇ 対象 小学校高学年

◇ 日程 事前学習1時間（職員…学校を訪問）＋本番1日（職員…バスに同乗し、学習を展開）

◇ 本番の日程（人数・観察場所数・バス車両の大きさ等により、時間は適宜変更します。※要相談）

①下流・常願寺川河口「今川橋」 9:10～9:35

◇下流の流れの観察ポイント

・川幅の広さ・流れの速さ・石の大きさ

※ 流れが止まっているように見える。

風や波により逆流することもある。

※ 駐車場「水橋フィッシャリーナ」



トイレあり ※数少ない

②大日橋「左岸」 9:55～10:00

常願寺川は、川底より、堤防の外側の方が低い（「天井川」である）ことを観察できる場所。付近は、霞堤になっており、洪水時に水を逃がす仕組みがある。

※ 北陸道の橋脚の長さを川中と堤防外を比較すると天井川だと分かりやすい。



③「大場の大転石」 10:05～10:20

1858（安政5）年の飛越地震の土石流により下流に流されたもの。直径4m以上の巨石が、常願寺川流域に41個ある。

※ 両手を伸ばして何人で大転石を囲むことができるか体感するとよい。

※ 時間があれば西大森の大転石も見学可



直径6.6m 推定質量400t

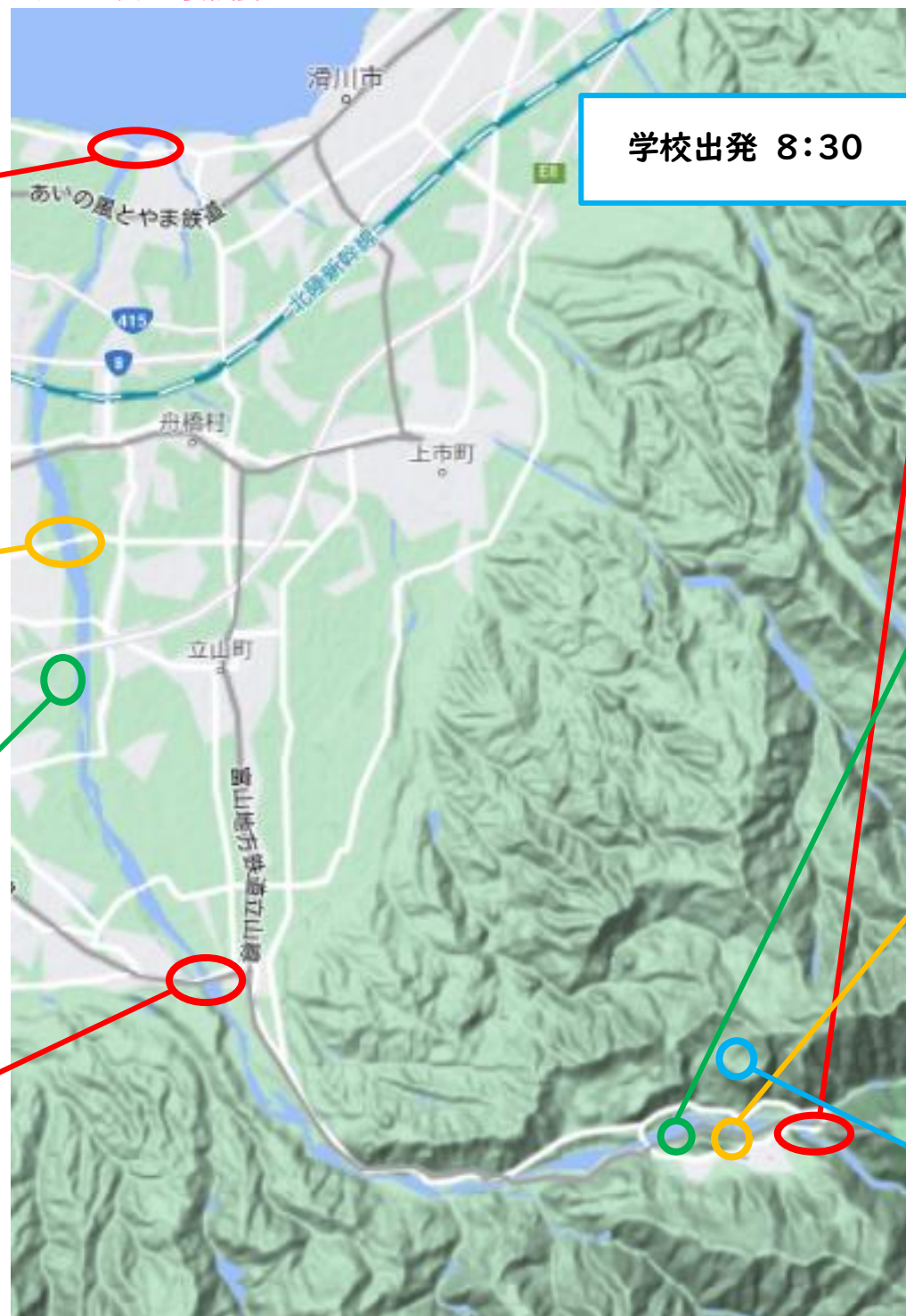
④中流・「岩嶺雄山神社付近」 10:30～10:50

◇中流の流れの観察ポイント

・川幅の広さ・流れの速さ・石の大きさ

※ 流れを目で感じる事ができる。耳を澄ますと流れる音が聞こえる。

※ 中流の堤防の車窓から、霞堤や制水群（水を弱めるブロック）を観察可



学校出発 8:30

⑤上流・「立山駅周辺」 11:10～11:40

◇上流の流れの観察ポイント

・川幅の広さ・流れの速さ・石の大きさ

※ 大転石と同程度の石がたくさんある。川の傾斜を感じることができる。

※ 観察のため、川幅5mの川を歩いて渡る。替えの靴や着替えが必要。



⑥「本宮砂防堰堤」見学 11:50～12:00

上流からの土砂を貯め、下流へおだやかに流す働きがある。貯砂量は、日本一の約500万m³、幅100m、高さ20m。1999年に国の登録有形文化財、2017年に国の重要文化財に指定。大絶景が広がる。

※ 立少の別プログラムで水遊び体験可



簡易トイレあり

⑦「本宮地内」観察 12:00～12:10

激しい流れによって、左岸が深く削られた様子が分かるポイント。川の曲がっている部分では、外側の方が流れが速いことも観察することができる。

左岸の削られた部分の上から観察することになる。転落に注意して観察する。



⑧立少到着 12:30

◇昼食（食堂食 or 持込弁当）

⑨まとめの学習 13:10～14:10

午前中の学習についてまとめる。また、動画や実験を通して学習内容を深める。

⑩立少出発 or 立少宿泊 14:20～

出典 google map